

出展決定 招待アーティスト

イケミチコ

高知県出身、大阪府在住

私は生きることについて考えつづけて制作をしています。永遠のテーマは自然の不変の本質、すなわち、生命、死と人間の愛についてです。魂は表面的な美しさで満足し癒される場合もあるだろうが、極限の悲しみ、苦しみに陥った時は、人間の底にある不変的な存在を揺さぶることによって癒されるのではないだろうか？エネルギーを大きく与えれば物質のポテンシャルは高くなり、その内に秘める力は大きくなる。私は作品を見てくれた人々にエネルギーを与えたい。



《Crazy Queen -横たわる-》2024年、
神戸元町 歩歩 琳堂画廊(神戸)

いわさきたかひろ

岩崎貴宏

1975年 広島県出身・在住

2005年 エジンバラ・カレッジ・オブ・アート MFA 修了

1975年広島県生まれ。2003年に広島市立大学芸術学研究所を修了。2005年にエジンバラ・カレッジ・オブ・アート大学院修了。主な個展に「第57回 ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 逆さにすれば、森」(2017年 カステッロ公園内日本館、イタリア)など。主な受賞歴に、第68回芸術選奨文部科学大臣新人賞(2018年)、タカシマヤ美術賞(2023年)などがある。ヴィクトリア国立美術館、金沢21世紀美術館などに作品が収蔵されている。



《カタポリズムの海》2024年、百年後芸術祭～
環境と欲望～内房総アートフェス(千葉県)
撮影:中村脩

Winter/Hoerbelt(ヴァンター／ホルベルト)

1992年 結成

現在の活動拠点 ドイツ

ヴォルフガング・ヴァンターとベルトルト・ホルベルトによるアーティストチーム。中に入ることができるサイトスペシフィックなオブジェや大規模なインスタレーションなどを通じて、彫刻という概念の再考を促している。

素材に用いられるありふれた工業規格製品は、本来の用途目的を剥奪され別の文脈に置き換えられることで、奇妙な相互作用を感じさせるがまったく関係のない機能を持ったアート作品へと変容する。

ヴォルフガング・ヴァンター

1960年 ドイツ出身

1989年 国立造形美術大学 シュテーデルシューレ・フランクフルト卒業

ベルトルト・ホルベルト

1958年 ドイツ出身

1989年 カッセル芸術大学卒業



《Dem Wasser Gewidmet (dedicated to the water)》
2022年、permanent art installation、
River Rhine, Mainz-Kastell, Germany
撮影:@rené spalek

出展決定 招待アーティスト

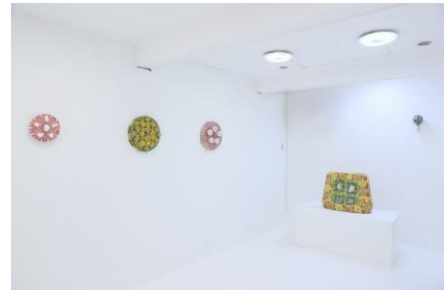
うえだまゆ 植田麻由

兵庫県神戸市出身・在住
2000年 大阪芸術大学大学院芸術制作研究科造形表現IV(工芸)修了

カラフルな色彩と有機的な形態で焼きもの造形作品を制作し、国内外で展示発表を行う。

心象が現れる心の広場を“Garden”に例えた「A Garden of Feelings」シリーズ、1995年の阪神淡路大震災から身を守ってくれたと感じる花崗岩(石)を作品化させた、石と土を共に焼く「A Lump of Feelings」シリーズなどがある。

私の制作の根幹となる「自然への畏敬」は、六甲の地で生まれ、それが陶の表現へと繋がっています。六甲は、私の日常であり、アイデンティティの一部でもあります。



個展「いとけわい ―A Lump of Feelings―」
2024年 / city gallery 2320(兵庫)
撮影:西澤智和(ni-moc)

おかだひろこ 岡田裕子

1970年 東京都出身・在住
1993年 多摩美術大学絵画学科油画専攻修了

XR技術で喪を体験する「Celebrate for ME」、再生医療がテーマの「エンゲージド・ボディ」、男性の妊娠を描く「俺の産んだ子」など、チャレンジングな手法で社会的インパクトのある美術表現を行う。個人活動以外に<オルタナティブ人形劇団「劇団☆死期」>主宰。家族のユニット<会田家>、Art×Fashion×Medical<W HIROKO PROJECT>などアートプロジェクトも多数。



《Celebrate for ME: okuru》2025年、
Celebrate for ME at Shunjuza、京都
芸術劇場春秋座
撮影:倉本大資

おさゆきえ 長雪恵

1976年 東京都出身・在住
2004年 多摩美術大学造形表現学部造形学科油画専攻卒業

自分の過去の作品を解体し、再構築して作品を制作。
過去作を特別な素材として使用。
制作した時期が異なる過去作には、その時々私の想いや表現方法が詰め込まれている。
様々な私が一つに集約され、今現在の作品が創られていく。
それらの作品は時の流れとともに、別の作品にアップデートされていく。
私にとって作品は永遠ではなく、生まれ変わっていくもの。
その中にある「変わる事」そして「変わるなかで変わらない事」を大切に制作を続けている。



《きょうこのごろ》2024年、
第27回岡本太郎現代芸術賞展、
川崎市岡本太郎美術館
画像提供:川崎市岡本太郎美術館

出展決定 招待アーティスト

おだにもとひこ
小谷元彦

1972年 京都府出身、東京都在住

1997年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了

1972年 京都府生まれ。失われた知覚や変容を幻影として捉え、覚醒と催眠、魔術と救済、現実と非現実、合理と非合理、人間と非人間など両義的な中間領域を探求する。また日本の近現代彫刻史の新たな脱構築に向けて、研究と実践を行う。ヴェネチア・ビエンナーレ日本館(2003)、リヨン・ビエンナーレ(2000)、イスタンブール・ビエンナーレ(2001)等多くの国際展に出品。立体作品のみならず多様なメディアを用い、綿密に構成された完成度の高い作品が内外で評価されている。



《Torch of Desire -52nd Star
(仮設のモニュメント 1)》2020年、Public Device、
東京藝術大学陳列館(東京)
撮影:鈴木理策

かいほつよしあき
開発好明

1966年 山梨県出身・在住

1991年 多摩美術大学美術学部絵画科油画専攻卒業

1993年 多摩美術大学大学院美術研究科修士課程修了

観客参加型の美術作品を中心に、2004年にヴェネチア・ビエンナーレ第9回国際建築展、2006年に妻有トリエンナーレ「越後妻有大地の芸術祭2006」に出品。2016年に市原湖畔美術館にて「中2病展」を開催。2024年「開発好明 ART IS LIVE—ひとり民主主義へようこそ」展を東京都現代美術館で開催。2025年「令和6年度(第75回)芸術選奨美術B部門文部科学大臣賞」を受賞。

また国外では、ベルリンのニューナショナルギャラリーにて「Berlin-Tokyo/Tokyo-Berlin」などに参加し国内外で発表を行っている。2011年に降デイリリーアートサーカスを企画し震災によって被害を受けた学校や仮設住宅に訪問して展示やワークショップを行った。



《スペースホワイトカフェ》2017年
六甲ミーツ・アート芸術散歩 2017(兵庫)

くらちものすけ
倉知朋之介

1997年 愛知県出身、東京都在住

2024年 東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了

エンターテインメントへの批評性のもと自らが主演・演出を手がけた映像インスタレーションを制作している。TVドラマ、MV、あるいは映画といった広く知られた娯楽を引用して、真似るといふ原初的な誇張により笑いを巧みに引き起こす。倉知は笑いを基底とした芸術表現によって、近代以降に生まれた娯楽や人間性を実践的に自問する。



《オクラ・ネイバー》2024年、
オクラ・ネイバー、BUoY

出展決定 招待アーティスト

しろうずる こ
白水ロコ

1970年 愛知県出身・在住

1994年 愛知県立芸術大学美術学部彫刻科卒業

幼少の頃より、動植物が好きで、動物に囲まれて成長しました。
なので、個人的に人間至上の感覚は好きではありません。
自然の豊かな日本には、昔から八百万の神様が居て、そこかしこに尊い精霊の存在が感じられます。大地にも、川にも、森にも、風にも、、、
私の作品世界では、全ての生き物が混ざり合った形で、同等に存在しています。
大切なものを求めて、制作しています。



《農村舞台アートプロジェクト2014》2014年、
愛知県豊田市小原地区 農村舞台

そのだ げんじろう
園田源二郎

滋賀県出身・在住

絵描き/俳人。
絵とことばのあいだをゆきつ戻りつしながら制作活動をおこなっている。
絵は主にクレヨンで描く。
近年は、ことばと絵を合わせた空間インスタレーション作品もてがけている。



展示風景より

たなかのぞみ
田中望

1989年 宮城県出身・在住

2017年 東北芸術工科大学大学院芸術工学研究科博士後期課程
芸術工学専攻修了

場所との関わりの中で生じた問いをテーマに作品を制作する。現場での体験や文献調査、聞き書きなどをもとに、場所と人との関係性を探り、絵画やエッセイ、アニメーションなどでの表現を行う。



《遍歴と変容の益子地図》2018年、土祭 2018、
旧濱田庄司邸
撮影:土祭実行委員会

資料に関するお問い合わせ

六甲山観光株式会社／神戸六甲ミーツ・アート事務局

TEL:078-891-0048 (平日 9:00~18:00)